

SOC300 子どもと住環境

3年 1,2クォーター

担当教員 栗原 知子

授業形態 講義, 演習

アクティブ・ラーニング アクティブ・ラーニング科目

単位数 2

曜日・時限 火曜日・4時限

授業概要

現代社会における子どもの諸課題を住環境の視点から理解し、国内外の先進事例を学ぶとともに、ワークショップ等の演習を通して、ハード・ソフト両面から課題解決に向けてのアプローチ方法を考える。学際的な視点で、子どもを取り巻く住環境への視野を広げることで、環境の変化が子どもたちにどのような影響を与え得るかを理解する。また、福井の子どもの住環境について、地域の特性や課題を見つけ、考察しながら、自分の意見を他者に伝え・表現する手法を身につける。

到達目標

受講者は、

- (1) 時代の流れを読み、自分自身の子どもの住環境観を持つ
- (2) 現代の子どもを取り巻く住環境の現状と課題を理解する
- (3) 福井県の子どもの住環境の特性を把握する
- (4) 国内及び海外の事例を知り、多様な子ども環境について学ぶ
- (5) 自身が理想とする住環境観を持ち、学際的に考察する
- (6) 自分の意見を持ち、他者へ伝えることができると同時に他者の意見に耳を傾ける

先修科目

該当なし

教科書・参考資料等

参考書

- 「子どもの参画」ロジャーハート、萌文社、2000年10月
- 「豊かな住生活を考える 住居学」小澤紀美子他、障国社2002年3月
- 「子どもが育つ生活空間をつくる」小伊藤亜希子、室崎生子、かもがわ出版、2009年8月
- 「都市の遊び場」アレンオブハートウッド卿夫人、鹿島出版会、2009年9月
- 「生活空間の体験ワークブック」日本建築学会編集、2010年3月
- 「日本子ども資料年鑑」社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所編、KTC中央出版

授業の方法

本授業は、講義（配布資料、スライド等を使用）を軸とし、適宜、演習やゲスト講師による講演を行いながら進める。講義ごとにミニ課題（またはミニ演習）を課すため、ミニレポートを提出しなければならない（A4用紙1枚程度に課題と感想を書く）。また、演習として少人数グループでのディスカッションや創作活動を行うため、積極的に参加することが求められる。

成績評価

講義ごとのミニレポート、演習や講義中の授業への参加度、中間及び期末レポート等を総合的に評価し、成績をつける。

成績

- 40% 中間・期末レポート
- 25% 演習（ディスカッション等）での態度、創作活動での成果物
- 25% ミニレポート
- 10% 授業への参加度

授業スケジュール

第1回:ガイダンス及び本授業での自分自身の目標設定

授業の進行方法や目的を説明し、学生の受講動機の確認や学びたい内容、興味の範囲を確認する。また、自分自身が15回の授業を通してどのような学びを目標とするか考え発表する。

第2回: 住環境とは

住環境とは何かを建築学・家政学の視点から理解し、同時にそれが子どもにとってどうあるべきかを考察する。適宜グループワーク方式で各学生の住環境観を発表し合い、学びを深める。

第3回: 社会の流れをよむ

住環境が変化した歴史的背景を把握し、今後どのように住環境が整備されるべきか、ハード・ソフト両面から考察する。内容に関連したビデオ教材を用いる場合もある。

第4回: 変容するライフスタイル

明治から平成にかけ、日本人のライフスタイルがどう変化したかを学ぶ。また、時代ごとのメリット・デメリットを理解し、その意味について考える。

第5回: 自分の子ども時代 (演習: 自分の子ども時代・その住環境を振り返る)

学生自身の子ども時代を振り返り、住居、家族、人間関係、施設、遊び場等を書き出し、グループで各学生の特性を検討する。※ミニ演習: イメージマップの作成。

第6回: 現代の子ども環境: 現状と課題

現代の子どものおかれる住環境を子ども環境学の視点から学び、その現状と課題を理解する。また、乳幼児期から青年期にかけて、各世代の子どもにとって重要な住環境のポイントは何かをそれぞれ考え、持論を持つ。

第7回: 子どもの生活空間① (家族と住居)

生活の中心となる家族や住居について、家族やライフスタイルの変化に伴う住居の間取りの変遷や住宅を持つことに対する価値観を学ぶ。

第8回: 子どもの生活空間② (施設と地域)

子どもが各成長過程において経験する施設の概要や地域における活動等をハード・ソフトの両面から学び、施設のあるべき姿や大人の役割を考える。

第9回: 子どもと地域

子どもを交えて取り組まれる地域活動や子どものまちづくりへの参画について、国内外の様々な取り組みを紹介し、子どもの参画への視野を広げる。

第10回: 子どもの遊びの特性からみえる地域の課題

子どもの生活の重要な課題の一つである遊びを取り上げ、現代の子どもの遊びの現状とその特徴から地域課題を理解する。

第11回: 子どもの幸福度 (幸福県・福井の住環境を読み解く)

日本の幸福度調査NO1に輝いた福井県の住環境の特徴を知り、その背景や政策、県民性を理解する。

第12回: 世界の子どもたち (北欧を事例に)

子どもの生活や住環境に係る世界の動向を紹介し、住環境への視野を広げる。また、日本や福井の良いところ・悪いところを考察する。

第13回: 現場を知る (以下の①②のいずれか)

①現地視察 (受講人数にもよるが、学生の意見を取り入れ施設見学に行く)

②ゲスト講師による講演 (福井で活躍する方や団体代表者)

第14回: 理想と現実 (演習: 課題を選びグループディスカッション)

タイムリーな話題をいくつか選定し、グループごとにその課題にまつわる現状や問題、その対応策等を議論する。

第15回: 総括 (演習: 自分自身にできること)

過去の講義・演習を通して学んだことを振り返り、今の自分が、現在または未来の子どもや住環境における課題に対してどのようなアプローチができるかを検討し、発表する。

事前・事後学習

- ・ 予習: 参考図書または配布した参考資料等を読み、授業開始時に行うミニレポートに意見・疑問点を書けるようにしておくこと

- ・復習：授業内容を踏まえ、再度配布資料を読み、授業前後の自分自身の考えの違いを整理・まとめること

備考

適宜，学生の意見を取り入れ，講義・演習の内容を変更する場合もある。